【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成22年2月25日(2010.2.25)

【公開番号】特開2009-56294(P2009-56294A)
【公開日】平成21年3月19日(2009.3.19)
【年通号数】公開・登録公報2009-011
【出願番号】特願2008-198019(P2008-198019)
【国際特許分類】
*Ａ４５Ｆ　3/16　(2006.01)*
*Ｂ６５Ｄ　41/56　(2006.01)*
【ＦＩ】
Ａ４５Ｆ　3/16
Ｂ６５Ｄ　41/56

【手続補正書】
【提出日】平成22年1月12日(2010.1.12)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
栓体を上部に備えた容器本体のこの上部に、上下逆向きにすることで前記栓体を隠蔽状態にして容器本体上部を閉塞し得る有底筒形の蓋兼用コップを着脱自在に設けた蓋兼用コップ付飲料容器において、前記容器本体の上部に前記蓋兼用コップを装着した際、この蓋兼用コップの口を接触させる開口周縁部の略全周を差込する差込部をこの容器本体の上部に設けると共に、この差込部に蓋兼用コップの開口周縁部が差込まれることで、この蓋兼用コップの開口周縁部の略全周の外側が隠蔽されるように構成し、この蓋兼用コップの開口周縁部付近の外周面であってこの開口周縁部を前記差込部に差込した際に隠蔽される箇所に、目印や模様などを表示して表示部を設けるか、若しくはこの隠蔽される箇所だけを模様のない無模様部としたことを特徴とする蓋兼用コップ付飲料容器。
【請求項２】
前記容器本体の上部であって前記栓体の周囲に略環状の溝状部を形成して、この溝状部を前記差込部としたことを特徴とする請求項１記載の蓋兼用コップ付飲料容器。
【請求項３】
前記容器本体の上部に取付筒体を外嵌状態に付設すると共に、この取付筒体は、上側の立ち上がり部の内側面の略全周と、容器本体上部の前記栓体との間に溝状の隙間部を生じる形状に構成して、この溝状の隙間部を前記差込部としたことを特徴とする請求項１，２のいずれか１項に記載の蓋兼用コップ付飲料容器。
【請求項４】
前記蓋兼用コップの開口周縁部を前記差込部に差込してこの蓋兼用コップを前記容器本体の上部に装着した際、この蓋兼用コップに係止して蓋兼用コップの装着状態を保持する係止部を前記容器本体の上部に設け、この係止部の蓋兼用コップへの係止状態を、押動することで解除する解除押動部を容器本体に設けたことを特徴とする請求項１～３のいずれか１項に記載の蓋兼用コップ付飲料容器。
【請求項５】
前記容器本体の上部に取付筒体を外嵌状態に付設すると共に、この取付筒体は、上側の立ち上がり部の内側面の略全周と、容器本体上部の前記栓体との間に溝状の隙間部を生じ

る形状に構成して、この溝状の隙間部を前記差込部とし、この差込部に前記蓋兼用コップの開口周縁部を差込して蓋兼用コップを前記容器本体の上部に装着した際、この蓋兼用コップに係止して蓋兼用コップの装着状態を保持する係止部を前記取付筒体に設け、この係止部の蓋兼用コップへの係止状態を、押動することで解除する解除押動部を前記取付筒体に設けたことを特徴とする請求項１～４のいずれか１項に記載の蓋兼用コップ付飲料容器。

【請求項６】

前記蓋兼用コップの開口周縁部の略全周に係止鍔を突設すると共に、この開口周縁部の所定位置に鍔無部を設け、この蓋兼用コップの開口周縁部を前記差込部に差込してこの蓋兼用コップを前記容器本体の上部に装着した際、前記係止鍔に係合して蓋兼用コップの装着状態を保持する係合部を差込部の所定位置に設けて、この係止鍔と係合部とが係合した状態から蓋兼用コップを水平方向に回転させて係合部を前記鍔無部に位置合せすると、蓋兼用コップを容器本体上部より係脱可能となり、この係脱可能な状態から蓋兼用コップを水平方向に回転させると、係合部が係止鍔に再び係合する構成としたことを特徴とする請求項１～３のいずれか１項に記載の蓋兼用コップ付飲料容器。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の詳細な説明】

【発明の名称】蓋兼用コップ付飲料容器

【技術分野】

【０００１】

本発明は、栓体を塞ぐ蓋をコップとして使用可能な蓋兼用コップ付飲料容器に関するものである。

【背景技術】

【０００２】

従来から、上部に栓体を備えた容器本体のこの上部に、前記栓体を隠蔽状態にして閉塞する有底円筒形の蓋兼用コップを着脱自在に設けた蓋兼用コップ付の水筒が実施されている。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【０００３】

ところで、この種の蓋兼用コップ付水筒は、口を接触させる蓋兼用コップの開口周縁部が外部に露出した状態のままで容器本体の上部に装着するように構成されているものが一般的であるため、この蓋兼用コップの開口周縁部に不衛生な手が不意に触れてしまったり、汚れなどが付着してしまったりして不衛生となってしまう懸念があった。

【０００４】

本発明は、このような問題点を見い出し、これを解決するもので、容器本体の上部に蓋兼用コップを装着すると、この蓋兼用コップの口を接触させる開口周縁部の略全周が隠蔽されて衛生的に保たれる画期的な蓋兼用コップ付飲料容器を提供するものである。

【課題を解決するための手段】

【０００５】

添付図面を参照して本発明の要旨を説明する。

【０００６】

栓体２を上部に備えた容器本体１のこの上部に、上下逆向きにすることで前記栓体２を隠蔽状態にして容器本体１上部を閉塞し得る有底筒形の蓋兼用コップ３を着脱自在に設けた蓋兼用コップ付飲料容器において、前記容器本体１の上部に前記蓋兼用コップ３を装着した際、この蓋兼用コップ３の口を接触させる開口周縁部３Ａの略全周を差込する差込部

４をこの容器本体１の上部に設けると共に、この差込部４に蓋兼用コップ３の開口周縁部３Ａが差込まれることで、この蓋兼用コップ３の開口周縁部３Ａの略全周の外側が隠蔽されるように構成し、この蓋兼用コップ３の開口周縁部３Ａ付近の外周面であってこの開口周縁部３Ａを前記差込部４に差込した際に隠蔽される箇所に、目印や模様などを表示して表示部を設けるか、若しくはこの隠蔽される箇所だけを模様のない無模様部６としたことを特徴とする蓋兼用コップ付飲料容器に係るものである。

【０００７】

また、前記容器本体１の上部であって前記栓体２の周囲に略環状の溝状部を形成して、この溝状部を前記差込部４としたことを特徴とする請求項１記載の蓋兼用コップ付飲料容器に係るものである。

【０００８】

また、前記容器本体１の上部に取付筒体５を外嵌状態に付設すると共に、この取付筒体５は、上側の立ち上がり部の内側面の略全周と、容器本体１上部の前記栓体２との間に溝状の隙間部を生じる形状に構成して、この溝状の隙間部を前記差込部４としたことを特徴とする請求項１，２のいずれか１項に記載の蓋兼用コップ付飲料容器に係るものである。

【０００９】

また、前記蓋兼用コップ３の開口周縁部３Ａを前記差込部４に差込してこの蓋兼用コップ３を前記容器本体１の上部に装着した際、この蓋兼用コップ３に係止して蓋兼用コップ３の装着状態を保持する係止部７を前記容器本体１の上部に設け、この係止部７の蓋兼用コップ３への係止状態を、押動することで解除する解除押動部８を容器本体１に設けたことを特徴とする請求項１～３のいずれか１項に記載の蓋兼用コップ付飲料容器に係るものである。

【００１０】

また、前記容器本体１の上部に取付筒体５を外嵌状態に付設すると共に、この取付筒体５は、上側の立ち上がり部の内側面の略全周と、容器本体１上部の前記栓体２との間に溝状の隙間部を生じる形状に構成して、この溝状の隙間部を前記差込部４とし、この差込部４に前記蓋兼用コップ３の開口周縁部３Ａを差込して蓋兼用コップ３を前記容器本体１の上部に装着した際、この蓋兼用コップ３に係止して蓋兼用コップ３の装着状態を保持する係止部７を前記取付筒体５に設け、この係止部７の蓋兼用コップ３への係止状態を、押動することで解除する解除押動部８を前記取付筒体５に設けたことを特徴とする請求項１～４のいずれか１項に記載の蓋兼用コップ付飲料容器に係るものである。

【００１１】

また、前記蓋兼用コップ３の開口周縁部３Ａの略全周に係止鍔17を突設すると共に、この開口周縁部３Ａの所定位置に鍔無部18を設け、この蓋兼用コップ３の開口周縁部３Ａを前記差込部４に差込してこの蓋兼用コップ３を前記容器本体１の上部に装着した際、前記係止鍔17に係合して蓋兼用コップ３の装着状態を保持する係合部19を差込部４の所定位置に設けて、この係止鍔17と係合部19とが係合した状態から蓋兼用コップ３を水平方向に回転させて係合部19を前記鍔無部18に位置合せすると、蓋兼用コップ３を容器本体１上部より係脱可能となり、この係脱可能な状態から蓋兼用コップ３を水平方向に回転させると、係合部19が係止鍔17に再び係合する構成としたことを特徴とする請求項１～３のいずれか１項に記載の蓋兼用コップ付飲料容器に係るものである。

【発明の効果】

【００１２】

本発明は上述のように構成したから、容器本体の上部に蓋兼用コップを装着すると、この蓋兼用コップの口を接触させる開口周縁部の略全周が差込部に差込まれて隠蔽されるので、蓋兼用コップの開口周縁部が衛生的に保たれることとなり、しかも、本発明は、容器本体の上部に蓋兼用コップの開口周縁部の略全周を差込する差込部を設けることで構成可能であるので、既存の蓋兼用コップ付飲料容器に対してさほど構造が複雑化せず、簡易に設計実現可能となるなど、極めて実用性に秀れた蓋兼用コップ付飲料容器となる。

【００１３】

また、本発明においては、蓋兼用コップの開口周縁部付近のどの箇所が差込部に差込まれて清潔に保たれる部分なのかを使用者が簡単に認識できるので、一層衛生的に使用可能となる極めて実用性に秀れた構成の蓋兼用コップ付飲料容器となる。

【００１４】

また、請求項２，３記載の発明においては、前記作用・効果を確実に発揮する差込部の構成を簡易に設計実現可能となり、特に、請求項３記載の発明においては、確実に容器本体に大きな構造変更を伴わずに差込部を構成可能となるなど、一層実用性に秀れた構成の蓋兼用コップ付飲料容器となる。

【００１５】

また、請求項４記載の発明においては、蓋兼用コップの着脱操作を所謂ワンタッチ操作で容易に行うことができ、しかも螺子回し着脱方式のような螺子構造を蓋兼用コップに有しないため、蓋兼用コップの開口周縁部への口当たりが良好であると共に飲料を飲み易く快適に使用できるなど、一層実用性に秀れた構成の蓋兼用コップ付飲料容器となる。

【００１６】

また、請求項５記載の発明においては、前記作用・効果を確実に発揮する係止部と解除押動部とを簡易に設計実現可能となる一層実用性に秀れた構成の蓋兼用コップ付飲料容器となる。

【００１７】

また、請求項６記載の発明においては、蓋兼用コップの着脱操作を、この蓋兼用コップを水平方向に回転するだけの操作で容易に行うことができ、しかも螺子回し着脱方式のような螺子構造を蓋兼用コップに有しないため、蓋兼用コップの開口周縁部への口当たりが良好であると共に飲料を飲み易く快適に使用できる上、ゴミなども溜まりにくく衛生的に使用できるなど、一層実用性に秀れた簡易構造の蓋兼用コップ付飲料容器となる。

【発明を実施するための最良の形態】

【００１８】

好適と考える本発明の実施形態（発明をどのように実施するか）を、図面に基づいて本発明の作用を示して簡単に説明する。

【００１９】

容器本体１上部の差込部４に蓋兼用コップ３の開口周縁部３Ａを差込して容器本体１の上部に蓋兼用コップ３を装着すると、差込部４に差込まれた蓋兼用コップ３の開口周縁部３Ａは、その略全周の外側が隠蔽された状態になる。

【００２０】

従って、これまでの蓋兼用コップ３付の水筒などとは異なり、容器本体１への装着時には蓋兼用コップ３の口を接触させる開口周縁部３Ａに不意に手が触れてしまうようなことがないし、汚れなども付着しにくくなるので、この開口周縁部３Ａが衛生的に保たれることになる。

【００２１】

また、本発明は、既存の蓋兼用コップ３付飲料容器に対して、実質的に容器本体１の上部に蓋兼用コップ３の開口周縁部３Ａを差込する差込部４を設けることで構成可能であるので、従来品に対してさほど構造が複雑化せず、簡易に設計実現可能である。

【００２２】

また、例えば、前記容器本体１の上部であって前記栓体２の周囲に略環状の溝状部を形成して、この溝状部を前記差込部４とすれば、差込することで蓋兼用コップ３の開口周縁部３Ａの略全周の外側が隠蔽される前記差込部４を簡易構造にして容易に設計実現可能となる。

【００２３】

また、例えば、前記容器本体１の上部に取付筒体５を外嵌状態に付設すると共に、この取付筒体５は、上側の立ち上がり部の内側面の略全周と、容器本体１上部の前記栓体２との間に溝状の隙間部を生じる形状に構成して、この溝状の隙間部を前記差込部４とすれば、容器本体１に大きな構造変更を要せずに、取付筒部５を容器本体１の上部に外嵌状態に

付設する構成を付加することで、前記作用・効果を確実に発揮する差込部４の構成を設計実現可能となる。

【００２４】

また、例えば、前記蓋兼用コップ３の開口周縁部３Ａ付近の外周面であってこの開口周縁部３Ａを前記差込部４に差込した際に隠蔽される箇所に、目印や模様などを表示して表示部を設けるか、若しくはこの隠蔽される箇所だけを模様のない無模様部６とすれば、表示部若しくは無模様部６があることによって蓋兼用コップ３の開口周縁部３Ａ付近のどの位置が差込部４に差込まれて清潔に保たれる部分なのかを使用者が一見して簡単に認識できるので、一層衛生的に使用可能となる。

【００２５】

また、例えば、前記蓋兼用コップ３の開口周縁部３Ａを前記差込部４に差込してこの蓋兼用コップ３を前記容器本体１の上部に装着した際、この蓋兼用コップ３に係止して蓋兼用コップ３の装着状態を保持する係止部７を前記容器本体１の上部に設け、この係止部７の蓋兼用コップ３への係止状態を、押動することで解除する解除押動部８を容器本体１に設ければ、蓋兼用コップ３を螺子回しするような操作を要せず、係止部７を蓋兼用コップ３に係止するだけの所謂ワンタッチ操作で蓋兼用コップ３を容器本体１の上部に係止（装着）できるし、解除押動部８を押動するだけの所謂ワンタッチ操作で係止部７の係止状態を解除して蓋兼用コップ３を取り外して使用できるので、容器本体１に対する蓋兼用コップ３の着脱操作が容易に行われることになり、しかも、螺子回し着脱方式のような螺子構造を蓋兼用コップ３の開口周縁部３Ａ付近の内面に有しないため、蓋兼用コップ３の開口周縁部３Ａへの口当たりが良好であると共に、螺子溝などがある場合にはこれが飲料の流れを阻害し易いために飲料を飲み辛くなってしまうことがあるが、このような飲み辛さを生じることもないなど、快適に使用できる。

【００２６】

また、例えば、前記容器本体１の上部に取付筒体５を外嵌状態に付設すると共に、この取付筒体５は、上側の立ち上がり部の内側面の略全周と、容器本体１上部の前記栓体２との間に隙間を生じる形状に構成して、この取付筒体５の立ち上がり部の内側面と容器本体１上部の栓体２との間の隙間を前記差込部４とし、この差込部４に前記蓋兼用コップ３の開口周縁部３Ａを差込して蓋兼用コップ３を前記容器本体１の上部に装着した際、この蓋兼用コップ３に係止して蓋兼用コップ３の装着状態を保持する係止部７を前記取付筒体５に設け、この係止部７の蓋兼用コップ３への係止状態を、押動することで解除する解除押動部８を前記取付筒体５に設ければ、容器本体１に大きな構造変更を要せずに、取付筒部を容器本体１の上部に外嵌状態に付設する構成を付加することで、前記作用・効果を確実に発揮する差込部４の構成を設計実現可能となると共に、容器本体１に構造変更を要せずに前記作用・効果を確実に発揮する係止部７と解除押動部８とを簡易に設計実現可能となるなど、一層実用的となる。

【００２７】

また、例えば、前記蓋兼用コップ３の開口周縁部３Ａの略全周に係止鍔17を突設すると共に、この開口周縁部３Ａの所定位置に鍔無部18を設け、この蓋兼用コップ３の開口周縁部３Ａを前記差込部４に差込してこの蓋兼用コップ３を前記容器本体１の上部に装着した際、前記係止鍔17に係合して蓋兼用コップ３の装着状態を保持する係合部19を差込部４の所定位置に設けて、この係止鍔17と係合部19とが係合した状態から蓋兼用コップ３を水平方向に回転させて係合部19を前記鍔無部18に位置合せすると、蓋兼用コップ３を容器本体１上部より係脱可能となり、この係脱可能な状態から蓋兼用コップ３を水平方向に回転させると、係合部19が係止鍔17に再び係合する構成とすれば、蓋兼用コップ３の着脱操作を、この蓋兼用コップ３を水平方向に回転して係合部19と鍔無部18の位置が合うように若しくは係合部19が係止鍔17に係合するようにするだけの操作で容易に行うことができ、しかも螺子回し着脱方式のような螺子構造を蓋兼用コップ３の開口周縁部３Ａ付近の内面に有しないため、この開口周縁部３Ａへの口当たりが良好であると共に、螺子溝などがある場合にはこれが飲料の流れを阻害し易いために飲料を飲み辛くなってしまうしゴミが溜まり

易い懸念もあったが、この発明によれば飲料を飲み易く快適に使用できるしゴミなども溜まりにくく衛生的に使用できる。

【実施例１】

【００２８】

本発明の具体的な実施例１について図１～図５に基づいて説明する。

【００２９】

本実施例は、図１，図２に示すように、栓体２を上部に備えた容器本体１のこの上部に、上下逆向きにすることで前記栓体２を隠蔽状態にして容器本体１上部を閉塞する有底筒形の蓋兼用コップ３を着脱自在に設けた水筒に適用している。

【００３０】

具体的には、容器本体１は、上部開口形であって円筒状の容器に構成し、この容器本体１の上部開口部には、略円柱状を呈し容器本体１内の飲料を注出可能状態と注出阻止状態に切替可能な前記栓体２を上方へ突出状態に設けている。

【００３１】

また、この容器本体１は、図３，図４に示すように、上部がやや径小となる形状に形成し、この上部径小部１Ａに短円筒状の取付筒体５を外嵌状態に付設固定している。図中符号９は上部径小部１Ａに設けた係止用リブ、10は係止用リブ９に係止して取付筒体５を抜け止め状態に固定する取付筒体５内面下部寄りに設けた係止突起である。

【００３２】

また、蓋兼用コップ３は、上下逆向きにすることで前記栓体２を覆うように隠蔽し得る有底円筒体に構成している（図２，図５参照。）。

【００３３】

本実施例では、前記容器本体１の上部に前記蓋兼用コップ３を装着した際、この蓋兼用コップ３の口を接触させる開口周縁部３Ａの略全周を差込する差込部４をこの容器本体１の上部に設けている。

【００３４】

具体的には、図４，図５に示すように、前記容器本体１の上部径小部１Ａに設けた取付筒体５を、その上縁部が容器本体１の上縁部よりも上方へ立ち上がり突出するように構成すると共に、この容器本体１の上縁部よりも上方に位置する取付筒体５上側の立ち上がり部の内側面の略全周を外方に向けて凹設した形状に形成して、この凹設部５Ａの内面と容器本体１上部に設けた前記栓体２の外周面との間に溝状の隙間部を生じるように構成し、この溝状の隙間部を前記差込部４とした構成としている。

【００３５】

従って、前記容器本体１の上部に前記蓋兼用コップ３を装着した際に、この差込部４に蓋兼用コップ３の開口周縁部３Ａが差込まれることで、この蓋兼用コップ３の開口周縁部３Ａの略全周の外側が隠蔽されるように差込部４を構成し、これにより容器本体１への装着時には蓋兼用コップ３の口を接触させる開口周縁部３Ａに不意に手が触れてしまうようなことがなく、汚れなども付着しにくくなってこの蓋兼用コップ３の開口周縁部３Ａの略全周が衛生的に保たれることになる構成としている。

【００３６】

また、本実施例では、図３，図４に示すように、前記蓋兼用コップ３の開口周縁部３Ａ付近の外周面であって、この開口周縁部３Ａを前記差込部４に差込して蓋兼用コップ３を前記容器本体１の上部に装着した際に隠蔽される箇所だけを無模様とすることで、この隠蔽される箇所を認識し得るように構成している。

【００３７】

即ち、この無模様部６があることによって蓋兼用コップ３の開口周縁部３Ａ付近のどの箇所が前記差込部４に差込まれて清潔に保たれる部分なのかを使用者が一見して簡単に認識できるので、この無模様部６を目安に確実に清潔な部分に口を接触させて飲料を飲むことができる構成である。

【００３８】

また、本実施例では、前記蓋兼用コップ３の開口周縁部３Ａを前記差込部４に差込してこの蓋兼用コップ３を前記容器本体１の上部に装着した際、この蓋兼用コップ３に係止して蓋兼用コップ３の装着状態を保持する係止部７を前記容器本体１の上部に設け、この係止部７の蓋兼用コップ３への係止状態を、押動することで解除する解除押動部８を容器本体１に設けている。

【００３９】

具体的には、前記取付筒体５に係止部７と解除押動部８とを設けている。

【００４０】

更に詳しくは、図１～図３に示すように、取付筒体５の一部をＵ字枠状に突設して取付枠部11を設け、この取付枠部11内の凹所に細長形状の可動体12を配設すると共に、この可動体12の中程を枢着軸13により取付枠部11に枢着している。

【００４１】

また、この可動体12の枢着軸13より図面において下側部分を前記解除押動部８とし、この解除押動部８を取付枠部11内の凹所の内方（上部径小部１Ａに接近する方向）へ向けて押動すると、中程の枢着軸13を支点としてこの可動体12の図面において上側部（可動体12の枢着軸13より上側部分）が取付筒体５の外方へ向かって起動回動するように構成している。

【００４２】

また、この可動体12の上部内側面に係止爪７Ａを設けてこの係止爪７Ａを解除押動部８の押動作動により起動回動する前記係止部７としている。

【００４３】

即ち、本実施例では、係止部７と解除押動部８とを一体に形成している。

【００４４】

一方、蓋兼用コップ３の開口周縁部３Ａの外側面全周に、この蓋兼用コップ３の開口周縁部３Ａを前記差込部４に差込した際に前記係止部７が係合係止する係合凸条14を一体的に形成している。

【００４５】

従って、解除押動部８を内方へ押動すると、可動体12の枢着軸13を支点にして係止部７が外側へ起動し、これにより係止部７が係合凸条14から係脱して蓋兼用コップ３の開口周縁部３Ａを差込部４から引き抜き可能（蓋兼用コップ３を容器本体１の上部から取り外し可能）となるように構成している。

【００４６】

また、図５に示すように、解除押動部８の内側面と凹所との間に弾性体15（コイルバネ15）を介在させて、この弾性体15により前記係止部７（係止爪７Ａ）が常に蓋兼用コップ３の係合凸条14に係止しようとする方向に付勢される構成とし、この弾性体15の付勢力に抗して解除押動部８を押動操作し得るように構成している。

【００４７】

従って、この弾性体15の付勢により係止部７の係合凸条14への係止状態が勝手に解除されるようなことなく、蓋兼用コップ３の容器本体１上部への装着状態が常に良好に保持される構成としている。

【００４８】

また、図５に示すように、前記係止部７（係止爪７Ａ）の上側部を面取りして湾曲面16に形成する一方、蓋兼用コップ３を逆さまにした状態での前記係止凸条14の下側面を面取りして傾斜面に形成し、これにより蓋兼用コップ３を容器本体１の上部に装着すべく、容器本体１の上部に対し上方から逆さまにした蓋兼用コップ３を下動させて蓋兼用コップ３の開口周縁部３Ａを前記差込部４に差込すると、係合凸条14の下側傾斜面が係止部７の上側湾曲面16に接触するように設け、この傾斜面と湾曲面16とが接触した状態で更に蓋兼用コップ３を下動させると、係合凸条14を係止部７が乗り越えるようにして摺動移動し、この際、前記弾性体15の付勢力に抗して係止部７が自動的に外側へ起動するように案内され、係止爪７Ａが係合凸条14に係止し得る位置まで蓋兼用コップ３を下動すると、弾性体15

の付勢力により自動的に係止爪７Ａが係合凸条14に係止して蓋兼用コップ３が取り外し不能状態（容器本体１上部への装着状態）に保持される構成としている。

【００４９】

即ち、蓋兼用コップ３を装着する際に、一々解除押動部８を押動操作せずとも、単に蓋兼用コップ３を前記差込部４に差し込むように下方へ押圧する操作で簡単に係止部７によって蓋兼用コップ３が係止されて装着状態が維持される構成としている。

【実施例２】

【００５０】

本発明の具体的な実施例２について図６～図１０に基づいて説明する。

【００５１】

本実施例は、前記実施例１において、蓋兼用コップ３の、容器本体１上部への着脱構造を異ならせた場合である。

【００５２】

即ち、本実施例は、前記蓋兼用コップ３の開口周縁部３Ａに係止鍔17を突設し、この蓋兼用コップ３の開口周縁部３Ａを前記差込部４に差込してこの蓋兼用コップ３を前記容器本体１の上部に装着した際、前記係止鍔17に係合して蓋兼用コップ３の装着状態を保持する係合部19を差込部４に設け、この係止鍔17と係合部19とは、蓋兼用コップ３を水平方向に回転することで係合状態と係脱状態とを切替可能な構成とした場合を示している。

【００５３】

具体的には、蓋兼用コップ３の開口周縁部３Ａの外側面の略全周に、外方へ向けて螺旋形でない一条の係止鍔17を突設すると共に、この開口周縁部３Ａの外側面の対向二箇所に係止鍔17のない鍔無部18を形成している。

【００５４】

即ち、図６，図７に示すように、対向位置に存する鍔無部18同士を結んだ直線を境にした開口周縁部３Ａの対向両側に平面視で略半円弧状をなす一条の係止鍔17が突設する構成としている。

【００５５】

一方、前記差込部４を構成する前記取付筒体５の凹設部５Ａ内面の対向二箇所に係合部19としての突起19を栓体２へ向けて一体的に突設して、この係合部19と前記鍔無部18の位置を合せると、この差込部４に蓋兼用コップ３の開口周縁部３Ａを深く差込できて、この蓋兼用コップ３を容器本体１の上部に装着し得るように構成している（図７参照。）。

【００５６】

また、この蓋兼用コップ３の装着状態において、係合部19よりも差込部４内の下方に係止鍔17が配置するように、この係合部19の凹設部５Ａへの突設位置（高さ）を設定構成している。

【００５７】

そして、この係合部19と鍔無部18の位置を合せて差込部４に開口周縁部３Ａを深く差込した状態から、蓋兼用コップ３を水平方向に左右いずれかの方向（どちらの方向でも良い）に回転させると、図８，図９に示すように、係合部19の下方に係止鍔17が入り込んで係合部19が係止鍔17に係合した状態となり、蓋兼用コップ３が上方へ抜け止め状態となって蓋兼用コップ３の容器本体１上部への装着状態が保持される構成としている。また、この装着状態から、蓋兼用コップ３を水平方向に回転させて鍔無部18に係合部19を位置合せすれば、蓋兼用コップ３を容器本体１上部より取り外しできる構成としている。

【００５８】

従って、単に蓋兼用コップ３を容器本体１の差込部４に差込して水平回転することで蓋兼用コップ３を装着状態に保持できると共に、この装着状態の蓋兼用コップ３を水平回転することで装着状態を解除して蓋兼用コップ３を取り外しできるので、操作性に秀れ、また、この本実施例の着脱構造は、簡易に設計実現可能な構成であるため量産性にも秀れることとなる。

【００５９】

また、このような蓋兼用コップ３の着脱構造を採用したことにより、螺子回し着脱方式のような螺子構造を蓋兼用コップ３の内周面に有せず、よって螺子にゴミが溜まるようなことがなく衛生的に保って使用することが容易であると共に、口を付けて飲むときの蓋兼用コップ３の開口周縁部３Ａは口当たりが良いので飲み易いこととなる。

【００６０】

また、前記係止鍔17の上面には、この係止鍔17の円弧長さの略中間位置にストッパ突起20を上方へ向けて一体的に突設している。

【００６１】

このストッパ突起20は、図８，図９に示すように、蓋兼用コップ３を水平方向に回転させた際に前記係合部19が側方から当接することで、蓋兼用コップ３を回転不能状態にストップさせるためのもので、これにより蓋兼用コップ３の過回動を防ぎ、ユーザーが蓋兼用コップ３を装着状態に保持するつもりの回転操作で、再び取り外し可能な状態にまで過回動操作してしまうことを確実に防止すると共に、ストッパ突起20で回転ストップすることで、ユーザーは蓋兼用コップ３が装着保持状態となったことを確実に認知できる構成としている。

【００６２】

また、このストッパ突起20は、係合部19と鍔無部18の位置を合せた状態から、４５度程蓋兼用コップ３を水平方向に回転させることで係合部19が当接して回転ストップする構成としている。従って、僅か４５度程の所謂ワンタッチ回転操作を行うことで蓋兼用コップ３を容易に装着状態に保持でき、逆に蓋兼用コップ３を容器本体１上部より取り外したい場合も、４５度程のワンタッチ回転操作を行うことで容易に取り外しできる操作性に秀れた省力化構造としている。

【００６３】

また、このストッパ突起20と並設状態にしてこのストッパ突起20の両側近傍位置となる係止鍔17の上面に、圧接突起21を上方へ向けて一体的に突設している。

【００６４】

この圧接突起21は、ストッパ突起20に比して突出度の小さい突起であり、この圧接突起21に前記係合部19が圧接することで蓋兼用コップ３の回転に抵抗を付与するものである。また、この圧接突起21と係合部19との圧接状態は、ユーザーが蓋兼用コップ３を軽い力で回転させることで簡単に圧接解除でき、且つ蓋兼用コップ３に触れなければ、圧接状態が保持され続ける程度の圧接度となるように、圧接突起21の突出度を設定構成している。

【００６５】

従って、ユーザーが蓋兼用コップ３を装着状態に保持するつもりで蓋兼用コップ３を４５度程回転操作すると、係合部19がストッパ突起20に当接する直前で先ずは圧接突起21に圧接して蓋兼用コップ３の回転操作に抵抗を生じ、この圧接状態のまま（回転抵抗を生じたまま）突起19が前記ストッパ突起20に当接してこのストップ状態が圧接突起21の圧接回転抵抗により保持される（蓋兼用コップ３の装着状態がロックされる）構成としている。また、このロック状態の蓋兼用コップ３を容器本体１上部から取り外す時は、装着時と逆方向に蓋兼用コップ３を回転させれば、圧接状態の圧接突起21と係合部19との圧接状態が簡単に解除されて、係合部19を鍔無部18に位置合せできる構成としている。

【００６６】

また、本実施例では、蓋兼用コップ３の容器本体１に対する回転位置が、蓋兼用コップ３を容器本体１上部より取り外しできる回転位置であることを示す目印22を、この蓋兼用コップ３の外周面と容器本体１の外周面とに設けて、この目印22を目安にして蓋兼用コップ３の装着脱操作を容易に行えるようにしている。

【００６７】

具体的には、対向位置に存する前記鍔無部18の夫々の鉛直線上に位置する蓋兼用コップ３の外周面位置と、容器本体１の上部に設けられた前記取付筒体５の、前記係合部19の裏側（外側）の外周面位置とに目印22を表示し、この双方の目印22を、蓋兼用コップ３を水平回転操作することで縦一直線上に位置するように合せると、鍔無部18と係合部19の位置

が一致して、蓋兼用コップ３を装着脱可能となる構成としている。
【００６８】
尚、詳しく図示していないが、目印22は、例えば「開」の文字を印刷したりシールを張ったり刻設したり突設するなどして表示すると、ユーザーが機能を理解し易く実用的である。また、もちろん他の構成の目印22でも良い。
【００６９】
また、本実施例の栓体２は、図１０に示すように、その上面に開栓ボタン23と閉栓ボタン24とを並設状態に具備していて、この開栓ボタン23を下方へ押動することで開栓状態になると共に、栓体２の上面より閉栓ボタン24が上方へ突出し、この上方へ突出した閉栓ボタン24を下方へ押動することで閉栓状態になる公知の栓構造を採用しているが、前記閉栓ボタン24が上方へ突出した開栓状態で蓋兼用コップ３を栓体２に被せて開口周縁部３Ａを前記差込部４に差込すると、同時に蓋兼用コップ３の底壁が閉栓ボタン24を下方へ押動して閉栓状態とするように、本実施例では蓋兼用コップ３の深さ寸法を設定構成している。
【００７０】
従って、開栓ボタン23を下方へ押動して飲料を蓋兼用コップ３に注出し、飲み終わったらそのまま蓋兼用コップ３を栓体２に被せるだけで同時に閉栓状態にでき、これに続く一連の操作のうちに蓋兼用コップ３を回転操作して蓋兼用コップ３を装着状態に保持できる極めて操作性に秀れた構成としている。
【００７１】
また、本実施例の容器本体１は、径寸法を６０ｍｍ程度に設定して細身形状とし、女性でも握持し易い構成としている。
【００７２】
その他の構成は、前記実施例１と同様であり、実施例１と同符号を付すことで詳細説明を省略する。
【００７３】
尚、本発明は、実施例１，２に限られるものではなく、各構成要件の具体的構成は適宜設計し得るものである。
【図面の簡単な説明】
【００７４】
【図１】実施例１の要部を示す容器本体の下部を省略した斜視図である。
【図２】実施例１の蓋兼用コップを取り外した状態を示す斜視図である。
【図３】実施例１の分解斜視図である。
【図４】実施例１の要部の正断面図である。
【図５】実施例１の要部の側断面図である。
【図６】実施例２の蓋兼用コップを容器本体上部に取り付けしようとする状態を示す容器本体の下部を省略した斜視図である。
【図７】実施例２の、鍔無部と係合部との位置を合せ、差込部に蓋兼用コップの開口周縁部を差込してこの蓋兼用コップを容器本体の上部に装着した状態を示す説明平面図である。
【図８】図７の状態から、蓋兼用コップを水平回転させて係止鍔を係合部に係合させ、蓋兼用コップの装着状態を保持した状態を示す説明斜視図である。
【図９】図８の平面図である。
【図１０】実施例２の、蓋兼用コップを栓体に被せることで、栓体の閉栓ボタンが下方へ押動される様子を示した説明側断面図である。
【符号の説明】
【００７５】
１　容器本体
２　栓体
３　蓋兼用コップ
３Ａ　開口周縁部

4　差込部
5　取付筒体
6　無模様部
7　係止部
8　解除押動部
17　係止鍔
18　鍔無部
19　係合部